

令和7年度 第2回養老町計画審議会及び養老町地方創生推進委員会 議事録

日 時：令和7年12月23日（火） 9時30分～11時14分
場 所：養老町役場 4階大会議室

【事務局】

皆様、こんにちは。

本日は、ご多用中にも関わらず、養老町計画審議会及び養老町地方創生推進委員会にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

本日は、両会議の開催目的が共通しており、協議事項の連動性を考慮した結果、審議会及び委員会を同時開催とさせていただきますので、あらかじめご了承のほど、よろしくお願いいたします。

また本日、「養老町まちづくりビジョン後期テーマ別戦略等」の策定支援業者であるネクストアイ株式会社より、説明の補助のため2名同席させていただきます。ご了承ください。

それでは会議に先立ちまして、町民憲章の朗唱をお願いしたいと思いますので、ご起立をお願いいたします。

前段を私が読み上げますので、後段をご唱和願います。

－「町民憲章」の朗唱－

【事務局】

ありがとうございました。ご着席ください。

申し遅れましたが、私は、総務部事務局の中島と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、22名の委員様のうち18人の委員様にご出席をいただいております。養老町計画審議会設置条例第6条第2項および養老町地方創生推進委員会設置要綱第6条第2項に、本審議会および本委員会は、「委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と規定されていることから、本日の会議は成立しております。ただ今から、令和7年度第2回養老町計画審議会及び養老町地方創生推進委員会を開催させていただきます。

それでは、まずはじめに、本日の資料のご確認をお願いいたします。

まず、本日の会議次第がございまして、裏面に委員名簿の方を掲載させていただきます。

その下に、A4サイズ1枚の資料で「策定スケジュールの変更について」がございまして。

また、委員の皆さまに事前にお配りしました資料として、資料1 養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略（素案）がございまして。

お手元に、お揃いでしょうか。万が一、資料がないようでしたら、挙手にてお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

問題なければ、協議事項に入ります。次第に基づき、順次進めてまいります。なお、議事録作成のため、本日の会議は録音させていただきますのでご承知おきのほど、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は、会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

皆さまのご協力により、議事がスムーズに進みますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思いますが、関連があると思われるので、協議事項の（１）養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略等の策定スケジュールについて、および協議事項の（２）養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略（素案）について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

（資料１、補足資料に基づき説明）

【会長】

ご説明ありがとうございました。

協議事項（１）では、国の動向を踏まえるためにスケジュールを変更し、まずは養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略の策定を進め、それに続いて次期総合戦略の策定を、パブリックコメントも実施しながら進めていくということでした。

また、協議事項（２）では、後期テーマ別戦略の素案ということでご説明いただきましたが、素案の 66 ページ以降の各戦略には「関連するまちづくりの課題」が記載されておりまして、これまで実施してきたまちづくりアンケートや、町民参加型ワークショップで住民のみなさんから出てきた意見や課題を計画に反映いただいたということでございます。

それでは、全体を通して何かご質問等ございましたらお願いします。

【委員】

一番思うのは、この施策はやらしてもらえればいいんですが、問題は財源をどう確保していくか。人口減は分かっている、税収が減るのはもう分かっていると思うんですね。住民が減るとことは住民税が減るし、いろんな税収が減になる。その税収をどう補うかという方法が何も書かれていない。財源がないのにどうやってやるのかということだね。全部の市町村が国・県の補助金で自己財源がない中で自分たちがやりたいことができない。

昨日も商工会で会議をしていたのは、中心商店街の活性化で、空き家・空き地のことについてある程度行政が調べているけれども、今後どうしようかという意向調査、売るとか貸すのか、その辺りを処分の方法まで踏み込んだアンケート調査を商工会としても町内の人とか、商工会の皆さんにもお願いをして、せめて高田の町の中だけでも空き家・空き地をどうしようか、今住んでいる人たちにどうしようかと、いうことをやっぱりアンケート調査をやられるのが一つだと思っています。そういう予算をつけてほしい。

今言ったように、財源をどう捻出するか。しっかりした基本方針を持たないと私は駄目だと思う。養老町の場合は、高速道路ができて、工場立地したのはサラダコスモと濃飛倉庫だけ。これは、昔からの地盤が柔らかい。30 メーターも 40 メーターも下に掘らないと固い地盤にならない。そういうことを考えると、やっぱり我が町は歴史と観光がある。もう少しその辺りに力を入れて交流人口を増やして、お金を落としてもらう方法をやっぱりしっかり考えてもらいたいと思います。我々もその動きをして、町のほうに提言、補助金をもらうような形でやりたいと思います。

このまちは衰退するというのが衰退はしない、消滅はしない、まだチャンスはある。今やればやれると私は思っていますので、この資料、本当にいい資料を作ってもらったけれども、財源の確保、これがないことにはできない、そう私は思います。よろしく願いいたします。

【会長】

貴重なご指摘ありがとうございます。

では、ただいまのご指摘につきまして、事務局からお答えをお願いいたします。

【事務局】

ただいまの財源についてのご質問でありますけれども、当町は今のところ財政推計と比較して歳入歳出ともに増加傾向にありまして、財政推計の基本的な部分である町税や地方交付税等について、今のところはまだ大きな乖離がない状況であります。そのため、現段階で財政が急速に悪化するという見通しは持っていないんですけれども、委員が言われますように、今後人口減少が進む中では、町税についても徐々に減収になっていくものと推計しております。

また、このまま物価高が継続する場合は、財政計画の推計と比べても物件費や人件費が増加して、その分、投資余力というのは減少していったら、財政の硬直化が進む懸念が実際にございます。さらに、少子高齢化の中で労働力不足に陥ることも指摘されておりますし、これからはマンパワーの確保も難しくなっていくと考えております。

実質、予算を増やして職員を確保することが困難な時代になってきておりますので、役場といたしましては、仕事量とマンパワーのバランスを取っていく中で、既存の仕事の選択と集中というような形でスリム化を図っていく必要があるのかなというふうに思っております。その方法は、事業のスクラップであるとか、業務委託であるとか、システム化であるとか、それから広域化などいろいろな方法がありますので、それらの手段を通して歳出の抑制というものを努めていくとともに、歳入面ではふるさと納税制度などによって財源確保に努めて、持続可能な財政運営に努めてまいりたいというふうに考えております。

【委員】

町長はこの町をどうしようという思いはあるんですか。その思いを私は聞きたい。これは我々商売ですけれども、大きい違いは価格なので、やっぱり先行投資をする、自分の会社を残すためにこういうことをやりたいということを社長は考えるわけで、我が町、町長に聞いてみたいと思うんですけれども、どうこの町を守っていくとか、そういう基本的な方針をぜひ聞きたいけれども、我々はずっとこの町で生まれてこの町にずっといる、死ぬまでおるわけ。そのための施策というのは首長がしっかり持って、こういう町にしたいから、この町は残れるんだらう、そういうふうに残してほしい、我々はそういう思いですので、ぜひその辺りを伝えてほしい。

【事務局】

委員がおっしゃることはもっともだとは思いますが、計画と町長の思いというところが、というのは当然なんですけど、計画は計画でありますので、委員が昔言われました、金太郎飴みたいな計画をつくってどうするんやと昔は言われましたけど、性質上どうしてもこうなってます。町長の思いというのはいろいろありまして、我々もこうしていくんやというところはあるんですけど、ちょっとそこら辺はうまくこの計画に落とし込めるかというところ、その部分はあるんですけどなかなかそういかんところもあると思います。

事あるごとに、町長からは、町としての問題、重要な案件、観光振興であるとか、といったところは聞いておりますので、方針はあると思います。その中で、財政基盤をしっかり保持して、少子高齢化に立ち向かっていくんだということも、常日頃言っておりますが、どうしても計画に落とすと、広く浅くというふうになるというのが性質なところなんです。町長の思いは、いろんなところで言っておりますので、聞いていただければいいのかなと思います。

あともう一つ、これはこんなことを言ったら大変失礼なんですけど、計画は10年とか5年で作っています。その中には必ず町長選挙が入ってきますので、そういったことも考えながらやっぱり計画というのはつくっていくかないといけないので、ちょっとそこら辺でご理解いただきたいというふうに思います。

【委員】

立場はよく分かりますので、町長とまたいろいろ話します。

【会長】

ありがとうございます。大変貴重なご意見ですので、町長に伝えていただけるといいかなと思っております。ありがとうございます。

では、そのほかご質問などございますでしょうか。

【委員】

子育て支援の活動と、それから今、婚活サポーターに入っておりまして、先日婚活パーティーを実施したんですけれども、独身の方たちの結婚の思いというもの、活動も目の当たりにしてきたところです。

養老町人口ビジョンのところで、質問とかになっていないんですけれども、やっぱり単独世帯がすごく増えているというところを見ると、30、40代の男性の数がものすごく増えているんですけれども、婚活パーティーでも10対10で定員を設けてやったところ、男の人が20人来て、女の方は数人しか来なかった、数字が実際の動きでも同じような感じになっていると感じたんです。やっぱり独身者が増えていっても子どもは生まれていかないんですよ、なので、ただただ人口が減るというのだけではなくて、人口の中身がどういうふうが増えたり減ったりしているのかということも併せて考えていく必要があるのかなと思いました。

あとは、出生率が下がっているという数字を拝見して、これはちょっと体感でしかないんですけれども、今、私、4歳と6歳の子どもがいて、こども園と小学校、私の周りではみんな2、3人産んでいるんですね。おかしいなと、ほかのママ友とも話していたんですけれども、一人っ子があんまりいないんです、養老町、少なくともこの高田エリアに。だけど、子どもが減っている、どういうことだろうねと話した結果、これは推測でしかないんですけれども、1人産んだら町外に出ているんじゃないかとちょっと感じました。残っていて2人目、3人目を産むという世帯が減っていったら、これは数字としては出生率が下がっていくというような感じになるのかなと、あくまで素人考えなんですけれども、もしそうだとしたら、やっぱり1人産んでほかへ行きたいではなくて、養老町で子育てしたいという環境をつくっていかないと、数字的には出生率とかも下がってってしまうのかなと思うので、それに対してできることがあるといいのかなというふうに思いました。

あと、ビジョンについて、とても私は期待していて、すばらしい計画がいろいろと考えられているなと思いました。特に、共創の場を設けながら住民と行政と団体が一緒に学びながらまちづくりをしていくというのは、ほかの自治体はすごくやっているのに養老町だけやっていないなと、ずうっと感じていたので、これはスピード感を持ってやっていくべきなんじゃないかなと思います。私は、民主主義と多様性の中で育ってきた人間なので、ワンマンな行政よりも、みんなの意見でまちがつけられていくという体制のほうが、うれしいなと思っています。

あと、関係人口を増やしていくというところで、移住・定住の促進というふうに書いてあるんですけれども、空き家とか空き地とかが養老町はたくさんあるんですけれども、不動産サイトとかを見るとあんまりないんです。売りに出したり貸したりする不動産がないんです、あんまり。大垣とか垂井とか海津とかに比べるとすごく少ない。ということは、養老町って子育ていいかもねと思っても、住む場所がないのではと感じています。特にお隣、すみません、だいぶ周りの地域のことばかり言っちゃってあれなんですけれども、建て売りが建っているんですけれども、養老町内で建て売りの家が建っている姿をほとんど見ないんですね。だから、住みにおいでよという体制ができていない中で、移住・定住促進って、何をしているのかなというのが体感としてあります。空き家とかいっぱいあると思うんですけれども、譲らない人もいます。空いているけれども、ほかの人に住ませるのは嫌だとか、孫が住むかもしれないからといって手放さないとかという現状もちらほらちらほら聞くので、そういう住民の意

識が変わっていかないと、それこそ移住したい人が住むスペースがない、余裕がない、余地がないと思いますので、そこら辺のところも含めて、何か施策だったり考え方を改めてやっていけてこそなのかなと感じています。

あと、スポーツ施設の利用者数を上げようというところで、スポーツ施設がないということを感じました。町民プール、ずっと休館ですけれども、プールじゃないエリア、議会の中で改装したら費用がかかるよという話があったんですけれども、プールの改修、すごくお金がかかるのは分かるので、そうじゃないスタジオとか、広いスポーツができる施設はあるんですよ。そこだけでも使えないかなと、私の周りのみんなも言っております。なので、お金がかかることではあると思うんですけれども、真っさらにきれいじゃなくても使える部分を使っていこう、動かしていこうというところからでも小さく始められるのかなと思います。やっぱり子どもがスポーツする場所がすごく少ないんです。なので、気軽に子どもも青年もスポーツができる環境というのがこれからあったらいいなというふうに思います。

あと、質の高い教育といえば、ちょうど2030年、目標値にありますけれども、ここから4年間で小学校の統合があると思います。ちょうど統合する方向で、ほぼほぼ決定したみたいな話になっていて、これから急いで4、5年かけて統合に向けて意見を出してまとめて実際に動いていくということで、来年には委員会みたいなものもつくって実際に話し合いが始まるということなんですけれども、大きな環境が変わる中で、質の高い教育というのをどういうふうにやっていくのか、計画どおりにいかないことは多々あると思うんですけれども、みんな注目しながら、子どもたちの教育について住民みんなで支え合っていけると、子どもたちは本当に豊かに暮らせるのかなというふうに思います。

という感じで、子育て住民目線で感じたことがいろいろありましたので、ぜひ反映していただけたらうれしいなというふうに思います。以上です。

【会長】

様々な観点からご指摘ありがとうございます。

では、ただいまのご指摘、ご意見について、事務局から何かありましたら。

【事務局】

まずは貴重なご意見ありがとうございました。

子育てにしても、婚活にしても、関係人口の増加、あるいは共創のお話、それからスポーツ施設、それから学校統合と様々な分野でご意見をいただいております。一つ一つは各部署と相談しながら進めていきたいと思っておりますけれども、やはり委員がおっしゃっておられたように、住民の意識を変えていくというか、きっちり住民の参画を促しながら今後事業を進めていくことが養老町の大きなポイントかなというふうに思っておりますので、この辺り気をつけながら実際にまちづくりを進めていけるように考えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【会長】

ありがとうございます。

そうですね、たくさんのご指摘をいただいて、やはり住民の方がどう思うか、住民の参画を促すということですが、促した成果もきちんと見ていかないといけないというのが、これからの共創の在り方なのかなという気はします。先ほどからご指摘のあった財政の面でも、やはり住民の方のご協力が無いといけないことは当然でございますし、そういったところを含め、住民の方からどういうふうに意識を持っていくか、注意を向けていくかというところが役場の取組になっていくのかな、いい方向に進めたらいいかな、と思っておりますので、やはり共創というポイントがとても重要と思った次第です。

あと、もう1点、これは全く個人的な考え方ですけれども、やはり男性の働き方だとか男

性の立ち位置というのは、まだまだ十分に議論されていないと個人的には思います。家族を持つ、パートナーを持つという意味では、もちろん女性への支援も非常に重要ですが、割とどの地域を見ても、女性に対する支援はあるんですが、パートナーとなる、なりたいたいと思う男性への支援という、働き方も含めた論点が、十分じゃないなというふうには思っています。なので、単身の男性も増えている、多いというところを如實的に、最終的には巡り合わせしかないとありますが、ただやはり働き方、暮らし方というところに男性の視点に立つというのは、今後国全体といたら大げさかもしれませんが、そういった世界全体、男性への支援というのが今後重要になってくるのかなと思っています。

大変貴重なご意見をありがとうございます。

【委員】

観光の面から一つお話しさせていただくんですけれども、実は私、旅館協会、多分皆さんご存じないと思いますけれども、全国組織があるんですけど、その全国副会長をずっとやっているんですけど、24年。それで、最初私が副会長になった頃は、国土交通省の中に観光部しかなかったんですよ。そのときの予算が年間にしたら4億円だったんです、僅か4億円。その後に観光庁ができて、政府が国会で観光立国で行こうということを言い出したら急に官僚の態度が変わりまして、今では観光庁に予算が1,000億ある。4億円が十数年で恐ろしい程に増えまして、観光いいねと最近になって、今ですと観光産業という言い方をしていますけれども、観光は産業じゃなかったんです。けれども、今では国もそうですけど、非常に力を入れて支援いただいている、いろいろな自治体が整備にも物すごいお金を使っている状況にあります。

さっき委員さんが言いましたけど、財政的な裏づけがなくあんなにこうだ言っても全く進んでいけないというのは、多分本音なんでしょうねと思いました。実はさっきから89ページを見ているんですけど、農業、林業、産業、商業、工業、とかいろいろ書いてあるんですけど、進めますとか、支援しますとかは書いてあるんですけど、やりますとは一言も書いていないんですよ。先ほどの話で、就労もあれば、子育てもするし、結婚もできる、その辺についてはやっぱりもう一度、さらっとじゃなくて、もう少しきちんとやりますというところを見せないと駄目なんじゃないかと感じます。

【会長】

ありがとうございます。

まず私のほうから、この計画の性質上、実際事業を動かす方々への支援というのがメインなので、多分こういう書き方にしたのかなという部分は、ご指摘に対して感じている所です。もちろんおっしゃるとおりです。

では、今のご指摘に対して、よろしくお願いします。

【事務局】

委員のお話ですが、書きたいところは書きたいです。ただ、やっぱりこれは行政がやることではなく、行政はあくまでも支援していく、下支えで、やっていただくのは産業をやっている方々で、その人たちにも声を聞きますけど、やりますとかということは計画にはなりませんので、さっき会長がおっしゃったとおりで、これはちょっと性質上、どうしても行政としては支援とか、進めるとか、ということにしておかないと、やりますと言うと、これは皆様に義務を課すような形になってしまいますので、その辺はご理解いただきたいなと思います。

【会長】

性質上仕方がないということですね。

今回のビジョンは、全体的な方針である、こうした先を見据えた取組に対してあくまでもその方針のところですので、いろいろなご指摘があったように、徴収率も含めたより具体的なところは違う計画、具体的な計画のところでもどんどん反映されるでしょうし、そういったところを期待していきたいというふうに思っています。

大変見やすく、いい計画というか資料を作ってくださいまして、これを踏まえて大変ちょっと恐縮なんですけれども、委員さんから、それぞれ一言ずつ思いを少しお聞きしたいなと思っております。急な振りで大変申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

【委員】

問題ないかと思えます。

【委員】

夏に子どもたちや皆さんと一緒に会議をさせていただいて、養老町のつながりだとか、未来を考える力というのを感じました。引き続き、私ども金融機関としての仕事をやりながら地域に貢献していきたいなと思っております。

【委員】

先ほど、いろいろご意見の中で、委員さんからスポーツ施設がないというようなお話もありましたけれども、とりあえず総合体育館の中では、年間稼働しているのが体育館アリーナがあったり、柔道場、剣道場、それからグラウンド、多目的グラウンドですね、今、野球場は改修をしておりますけれども、芝生のスマイルグラウンド、笠郷のテニスコートとかといったところで、年間の稼働率からすると総合体育館の建物については、年 365 日中、約 280 日ぐらいは何かのご利用させていただいておる団体、あるいは個人の方がおり、皆さんにご利用いただいております。

総合体育館でございますけれども、アリーナがまだエアコンも何もないというような状態の中で、夏場は大変皆さんが大汗かいてやっぺらというところが見受けられますけれども、その辺りの施設をどういうふうに今後していくのか、私どもも管理運営しているだけでございます。その中で、こちらのほうとしてはあるといいよね、というところなどについて意見は出しております。今後どういうふうに改良されていくのか分かりませんが、現状のところ、維持管理していく中で、改良を行っていくと相当の額がかかってくるかなと。先ほどおっしゃられました町民プール、あちらのほうは閉鎖しておりましたけれども、あちらのほうも壊すだけでウン億円と言われるような金額がかかります。今、総合体育館のも耐用年数まであと数年かな。50年という耐用年数から考えるとあと数年で耐用年数が来るんだという状態の中で、今後どういうふうに改良されるのか、まだ私どもも分かっている状態ではないというところでございます。

ただ、スポーツをやれる環境がないよねということに関しては、小さいお子さんが小学生低学年からスポーツ少年団というものも現在ございます。ただ、こちらも少子化によってどんどん少年団の数が減っておるといったような状況もありますけれども、今後どのようになってくるかよく検討しないと何とも言えませんけれども、ある程度少年団の数も淘汰されてくる感じは見受けられますけれども、どこまで減ってしまうのか想像はつかないんですが、現状の中からはとまだまだ少年団の数は減ります。

それから、中学校の部活の関係で考えますと、部活動はなくなっちゃいますという中で、地域の方々が指導をどうやってしていくのかということもございまして。そういったところも包含的に考えて、少年団が中学生を見ますよ、というようにところも現状出ております。そういったことを鑑みると、スポーツ施設あるいはスポーツ産業、こういったところについ

でも少子化においての波にはもまれております。

ただ、高齢の方も結構スポーツをやっていると思います。卓球あたりでございますと、大体平均年齢を見せていただくと70歳前後の方が一番多いような感じで、今卓球がはやっております。そういうところを鑑みると、やっぱりスポーツというところは生涯にわたってやっていくんだなというのは非常に感じております。

それからもう一点、多くの関係人口というところで、先ほどの資料の66ページの中で、まちづくりの目標としての日独交流事業の申込み、こちらが入っておりますけれども、日独交流についての考え方、国際交流というふうな観点からすると、どうして日本とドイツだけなのと。ドイツ、バート・ゾーデン、こちらとの姉妹提携も結んでおりますけれども、こちらのほう単独で行って年度で終わっちゃうんですね。もう30年近いのかな、日独交流をやっておりますけれども、過去行かれた方、あるいは受け入れた方、それぞれ単年度で終わってしまって何の交流もないというのも実際ありますので、その辺りをちょっと踏まえてお考えいただくとありがたいかなというふうに思います。

すみません、長い間しゃべりました。以上、スポーツ連盟としてはそんなようなことでございます。ありがとうございます。

【委員】

ほかの市町も取材している身ですので、その点から一言。1点だけなんですけれども、各委員とも共通するところがあるかもしれませんが、課題の12番の一つが移住・定住の促進ということになっておりますけれども、ほかの市なんかを見るとやはり、今はもう移住・定住促進というのは、課題というよりは戦略になっているところが多いかなと思ひまして、特に養老インターも、名神が通っていて、そういった方たちを取りこみやすい要素もあるかなとも思うので、そういう視点で見ると、課題ではなく戦略なのかなという気もしますし、周りの市がどんどん呼び込んでいる中で、出遅れるとまた悪影響があるとも思うので、ぜひ積極的に取り組んでみてはどうかと思います。

【委員】

養老町に住んでおられる学生さんとか、それから一家を支える、生計を支える方々が養老町で家族と居住をしながらもう少し広い世界へ出て、養老町で活躍するだけじゃなくて、もう少し近隣の犬伏、岐阜で活躍するというためには、やはり交通の大動脈である養老鉄道を死守することが最大の課題なのではないかというふうに思います。

統計を見せていただくと、町内の3つの駅の利用者が2,000人弱ですから、この数は採算ベースには乗らないかもしれないけれど、名実ともに養老と近隣を結ぶ大動脈だと思います。学生さんにとっての、一家の生計を支える方の職業活動にとっても本当に大動脈であることは変わりがないと思います。しかし、存続の危機ということを言われておりますが、ぜひこれを町民の方がどのように守っていかれるのか、パブコメで養老鉄道にかける思いについて集約をしていただきたいというふうに強く思います。以上です。

【委員】

社会福祉協議会といたしましても、実際戦略の中にもある地方創生と協働によるまちづくりということで、特に地域福祉の意味で、もちろん高齢者から子育て世代の方まで全ての世代に対して地域住民の方と一緒に進めていけるように、また組織体制づくりや担い手づくりといった面で、今後進めていけるようにしていく必要があるなということは改めてこの計画のほうを見て感じております。

社会福祉協議会ですので、なかなかそういった動きがまだ少ない中で行政とも共有しながらそういった形で進めていきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

【委員】

これから先、小学校とかが幾つか統合されると聞いているんですけども、遠いところはスクールバスで行くとか、ちゃんとスムーズに子どもたちが学校に行けるように、皆さんで工夫していただきたいなと思います。

【委員】

スポーツ施設の件で、先ほどは大変失礼いたしました。うちも体作りをするのに通わせていただいていたので、今年は運動会が雨だったので、養老こども園、使わせていただいて本当にありがとうございます。

言いたかったこととしては、もうちょっと使いやすい状況になったらうれしいなというところで、今10人、団体、サークルみたいなのを作らないと使いにくい感じですよ。

【委員】

基本的にはやるスポーツによって、例えば卓球であれば2人から始められます。そういったところであれば、個人的に使っていただくということは自由にできます。

【委員】

ありがとうございます。

何かその辺りのこともみんなよく分からないからどうやって使ったらいいんだろうというところもあったりとかして、施設だけではなくて、情報だったり、アイデアとして使いやすいとかやりやすいということも進めていけると、何においてもですけども、というふうに思います。

財政が足りるのか、お金がまずないとできないという話もあると思うんですけども、お金がなくてもできることがあるんじゃないかと私は思っていて、まずアイデアをすごく練ることというのが大事なんじゃないかなと思います。ほかの自治体はやっぱり、日本の田舎はどこもお金がないと思うんですけども、アイデア次第でできることから始めようみたいなことも進めていると思いますので、お金があってじゃあ何をやろうではなくて、これがやりたいからどうやってお金を集めようかというふうに考えないと、結局住民が納得しないお金の使われ方がされるということがこれまでであったと思うんですね。今真っさらになってしまったところとか、運営も含めて施設をどうしようか、施設を建てるとかリノベする、YOROfficeもそうですけども、ちゃんとアイデアと計画を立ててお金を集めないと生かされていかないと思うので、計画を立てるということがすごく大事ななというふうに思っています。

この後、きっとパブリックコメントをまたもっと身近な住民の方の意見が吸い上げられて、これがしたい、じゃあどうしようという話がどんどん進められるといいかなというふうに思っております。

【委員】

いろいろな行政で計画されることに基づいて、私たちが活動しておるんでございます。実質活動するにしても、なかなか皆様方にそれだけ説明が不足になるかも分かりませんが、聞いてもらえない。ですから、今までは大きく大きく集めてやることを考えておったんですけど、最近考えを変えまして少人数、2～30人で集まってやる活動に今切り替えております。そのおかげで参加して、皆様方、我々、ふれあいセンターというものを造っていただきまして、そちらに集まっていろいろ活動したりコーヒーを飲む機械もありますし、それからいろいろ座談会も、誰かを呼んで講習を受けるとかというようなこともやっております、有意義に今、何とか進めておりますけど、マンネリ化してもいけませんので、いろいろ新しいアイデアを入れて活動するように今進めております。これも全て行政さんと打ち合わせて

こつこつとやっております。そんなような現状です。

【委員】

教育委員の立場としては、毎年、町内にある小学校、中学校と園と教育委員メンバーで視察訪問、学校訪問等をしているんですけども、すごく人権教育に養老町ならではの道で人権教育に力を入れているので、養老町で育っている子どもたちは養老町で学んでよかったと、あと保護者の方は養老町で子育て、教育をさせてよかったと喜んでくださる方が少しでも多くなるよという思いで、私、教育委員として仕事をしているんですけども、今日話題にあったように、5年後に小学校、今7校が2校に統合するということが決定して、来年から順に統合が始まるということで、きっとそれも町役場の方々も準備委員会に入ってくださいいろいろな議論するということは聞いていますので、全住民100%が納得いくことは難しいかもしれないんですけど、多くの方が納得いく形になって、今学んでいる子どもたちが、将来養老町に帰ってきたいという子どもたちが少しでも多くなるようなサポートをやっていければいいかなと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

あと1点だけ、最初委員さんが言われたことでちょっと気になったことがあって、出生率の話がされたと思うんですけど、調べてみたら、日本だと15歳から49歳の女性が一生の間に平均何人の子どもを産むかという数字らしいので、多分産んでいない方が多いと思うので、多分産んでいらっしゃる方は何人か産んで、産める方からお話を聞くと思うんですけど、きっと産んでいない方が多いのでということと思うので、ぜひお仲間の方にも、産める方は産んでといったほうがいいのか、ちょっとまたそれは難しいですけど、いろいろそういったこともサポートしていけるようになるといいかなと個人的には思います。

【委員】

ハローワークとしまして、皆さんご存じ、まず人の募集、それから職のあっせんというのをやっておるんですが、こちらの私も大垣と西濃地域を見ておりますと、養老町、さかんなのは製造業と、それから卸小売業、それから医療福祉になっております。大垣管内の西濃地域も同じように、製造、卸小売、医療福祉というのは働く人口が多くなっておりまして、求人の方も3職種、求職の方も同じくその3職種、西濃地域も人の取り合いみたいな形で有効求人倍率が1.05となっております。今年の4月以降ちょっと数字のほう下がっておりますが、今、人手不足というのが世の中騒がれているなかで、どうしても先ほど言いました製造とか、卸小売、それから医療福祉というのが、今の地域に流出している、人が取られてしまっているように感じております。そうなりますと、やっぱり養老町の魅力を若い方に知っていただくということがとても大事だと思いますし、あと人口の減少の食い止めとか、先ほどお話にありましたが、税の収入という面からすると、やはり働く人口を増やしていただくというのがポイントになってくるかなと思っています。

あと、いただきました資料を先ほど見ておったんですが、例えば養老町に外国籍の方というのを受け入れられる体制というのはどうなのかなと感じております。外国籍の方も、大垣市内でたくさんの方が働いてみえます。中にはそういった学校もあります。外国籍の方がたくさん働く、就業する環境とか場所というのを提供していただけるといいかなと思っています。ハローワークとしましても、そういった、企業さんへのサポート、求職者の方へのサポートというのを併せてやっていきたいと思っています。

【委員】

このプロジェクト、私、読ませていただきまして、本当に国のほうから各地方公共団体一つ一つこういった計画をつくりなさいということで、いろいろな要素を含んだすごいビジョンになっていると思います。これを達成するのは大変難しいなということを感じつつも、これはこれでしっかり進めていただきたいと、ただ、そうは言いながら、今の世の中、時代に

なりますと、一つの町で全てをやろうとするのはなかなか難しいと思うので、これはこれとして進めていただきながら、周りの市町村とも連携して、いろいろな意見を交わしながらプロジェクトをつくったり、そういった進め方をさせていただくのもいいのかなと思います。

あと1つ、資料の94ページのところで、自治体マネジメント調査プロジェクトというところで、それをどういうふうにやっていくのかなということにちょっと興味があります。自治体マネジメント評価なので、町の組織の中で主にやっていくのかなとは思いますが、やっぱり町民の方とか地域の方の声も踏まえつつ、この中に取り込んでいただきながらやっていただけるといいのかなと思います。このプロジェクトがどういうものだ、というふうに思っておりました。

地域の皆さん、本当に意見をすごく言っていただきまして、こういった組織の中でも、例えば商工だったら商工関係者の方を呼んでいろいろな意見を聞くことが多いのかなと思うんですけども、先ほどから聞いていましたら、すごくいろいろな視点でいろいろな意見を言っているのを聞いて私は感動しております。商工の関係であっても、委員さんのような人が来ると全く違った視点で意見を言っているだけなので、そういった意味でいろいろな意見を持っている人が部局関係なく、福祉だけじゃなく、商工関係やいろんなところで意見を言っているといいのかなと思います。

【委員】

皆さん、今日のご苦労さまでございます。

皆様方のいろんな意見を聞きますと、我々議会としては、本当にこうした意見をいかに行政に上げて、そして行政といろんな話をしながら皆さんに返して、要は養老町がよくなればいいなと思います。そうした意見を我々がこれからも吸い上げて、行政なり町長にもお話ししながら皆さんの意見を少しでもくみ取れるようにしたいと思いますので、こうした意見をもっともっとたくさんの方が議会のほうへ集めてもらえればと思います。よろしく願います。

それと、委員さんが言った30代の男の人がなかなか結婚しないということですけど、昔はお年寄りの方でお世話する人がたくさん見えて、うちの孫をどうのこうのとか、近ごろそういう人がちょっと少なかったというのもあるかな。婚活もいいんですけども、そういう人を増やしてもらえらるなら、紹介してもらって、なかなか結婚したいんやけど、そういう機会がない人に、こういう人が見えるんやけれども、お宅さんのところの娘さん、息子さんどうですかとか、そういうところから始めたら、一つの芽生えというか、できるんじゃないかと思います。婚活というと、男の人が多いいけど女の人が少ないというのが現状だと思います。だから、そういうことも大事ですけども、まず地域の方のお年寄りの声から、隣の人に声をかけてもらえらる人を増やして、新しいいい出会いがあればいいなと思います。そういう機会をぜひとも広げてもらえらるありがたいと思います。よろしく願います。

【委員】

養老町の議会としましても、私たちは全て行政の声、いろんな提案をしたり、また議決権というのがございまして、いろんなことを精査していく場所であると思っておりますので、今日は各委員さんそれぞれのお立場でいろんなことをお話していただきましたことを参考にしながら、私たちも議会としてしっかりと進めていきたいなと思っておりますので、その点よろしく願いたいと思います。

その中で、私も5点ほどちょっとチェックをしてきましたが、皆さんと同様な話もありましたので、ここでは控えさせていただきます。行政にも何なり気づいたことはしっかりと提案していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

【委員】

今、各地区で一番困っているのは人材不足といいますか、つながりが希薄化してきたということも確かなんですけど、なかなかそういうことで出ただけでない人もございます。先ほど言われたように、結婚ができないというのが一番難しいところがあるんですけど、昔は本当に井戸端会議、お年寄りがやっぱり井戸端会議をしながら、あそこがいい子がおるよとか、いろいろな話があって、かなりの結婚率が上がったと思うんです。今は自由になっていきますので、結婚するよりは自分の給料で自分でやっていったほうがいい人がかなり増えてきたと思うんです。そうじゃなくて、やっぱりそこら辺を伝えられる人間というんですか、昔の何とかお母さんとかいましたよね。そういう人がいなくなっている。今の地区でも同じようなことで、なかなか出てきてもらえない。そういうような集まりに参加されない、いろいろな知恵を、お年寄りの知恵を授かる場所がなくなったというのが一つの大きな欠点じゃないかと思います。与えられたことをやっていけばいいとか、私のほうではやりたくないよとって、委員に当たればやりたくない、何とか逃げようという、委員の会議にも出ないようなこともかなり多くなっているんです。やっぱり昔のような状態でやっていって、子育ても、昔は農業も多かったもんですから、親が田んぼへ行っていると、近所のおばあさん、おじいさんが全部面倒を見てくれたぐらいの、それぐらいのつながりがあったんですよ。それも希薄化されてなくなってしまった。それも非常に悪い面じゃないかなと思っております。それが復活していくのも、やっぱり協力が必要ということで、お母さん方もなされたか分かりませんが、一つの地域のよさとかというのを知ってもらうことが一番大事なかなと思っておりますので、それもこれからも進めていかなきゃならないかなと思ってます。

これは、我々区長のほうも、区長会のほうもなるべくはそういう話というんですか、地域のよさを知っていただけるような協議会をつくっていきたいと思っておりますし、いろいろな面で我々も情報をもらえれば、そういうようなことでやっていきたいと思っております。スポーツの件もありますし、教育の関係も、我々もやっぱりその中に入っている孫もおりますので、そこに入ってこないとならないと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから、もう一点ございますが、企業誘致の関係で、企業の支援というのがちょっと書いてあるんですけど、支援はどこまでのことを考えてみえるわけですか。ちょっとお聞きしたいです。

大分県の日田市というところがあるんですけど、企業支援の中で、企業が来たいと言ったときに、土地の関係も市のほうでやりました。それで、企業と話をしながら双方で、開発に関するお金は全部企業が出すんですけど、それに対する仕事に際しては地元の人を使ってやって、そうしたら地元の会社、いろいろなメンテナンス関係、道路関係とか、そういった人が市から任されて、この道路長くなりますか、というようなことをやっていたわけなんです。それで、そういうことをやって初めて大きな企業が来てもらえるもんで、ただ土地がありますよだけでなく、そこまで入り込む必要があるんじゃないかなと、それは行政が全部任すんじゃないかと、その中で支援というか、いろんなことで地元の話、またインフラの関係もいろんな部分で考えれば、企業だけじゃなくてほかの人もよくなりますので、その分は町が見るとかと、いろんなやり方があると思うんです。私も、日田市でその関係で会社に頼まれて5年ぐらい行っていたんですけど、かなりいいところが見つかりました。最初に行ったときは、こんな道通れるのと思っていたんですけど、やっぱりここに来てもらえるならば、地域のためにも道路を広げてでもやりたいということで、一部その工場のほうにまでつけていただいて、2年後にはバイパスができました。そこに企業が今かなり来ているんですよ。一つできればまだ増えることもありますので、その辺もちょっと町のほうで考えていただいて、お金がないからできないんじゃないかと、そんな中で知恵を出してもらって、そんな中で企業と連携を取ってもらえれば企業も来ますし、今、日田市のほうで従業員30人ぐらいの工場が3つぐらい動いているんですけど、それも全部日田市の方、地元の方を雇用している状態になっています、先のこととは分かりませんが、そんなことも考えながらやっていただければいいかなと思ってます。

【会長】

皆様、それぞれのお立場からご意見、コメントをいただきまして誠にありがとうございます。私が総括するわけではないんですけど、やはり役場の方、地域住民の方々との対話というか、しっかりとしたお話をする機会があって、役場の方も交えてお話することがとても大切なのかなと改めて思った次第です。

それでは、協議事項（２）については承認事項となっておりますので、今回出たご意見などを踏まえて事務局の方で必要な修正を加え、素案とすることに賛成の方は、挙手をお願いします。

【委員】

（全員挙手）

【会長】

挙手が全員のようなので、協議事項（２）は承認されました。先ほどご説明いただいたスケジュールに沿って、策定に向けて進めていただきたいと思います。

続いて、協議事項（３）その他でございますが事務局の方から何かございますでしょうか。

【事務局】

はい。先程もご説明いたしました。先ほど委員の皆さまにご承認いただきました養老町まちづくりビジョン・後期テーマ別戦略（素案）につきましては、12月25日（木）から1月23日（金）までの30日間、パブリックコメントを実施させていただきます。

また、本日の会議次第の下にも記載してございますが、パブリックコメントの結果報告および本プランの最終案をご審議いただくため、第3回の審議会を2月2日（月）9時30分から開催したいと考えております。

さらに次期総合戦略についても、今後同様に進めてまいりたいと存じますので、第4回の審議会を3月24日（火）9時30分から開催させていただきます。開催案内通知につきましては、それぞれ後日お送りいたしますので、何かとご多忙な時期で大変恐縮でございますけれども、ご出席のほど何卒よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【会長】

事務局からパブリックコメントの日程と、第3回および第4回審議会の日程についてご説明がありました。このことについて、皆さまから何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

ご意見、ご質問がないようですので、委員の皆さまにおかれましては、日程調整をお願いいたします。

以上を持ちまして、本日の協議事項は終了となります。

慎重審議、ご協力ありがとうございました。事務局へ進行を、お返しします。

【事務局】

それでは、長時間にわたり、大変ありがとうございました。これで、令和7年度第2回 養老町計画審議会及び養老町地方創生推進委員会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。